

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 8月 31日

【評価実施概要】

事業所番号	0170201321		
法人名	有限会社 ソラ		
事業所名	グループホーム 笑顔の村二番地		
所在地	札幌市北区新琴似11条16丁目10番9号 (電話) 011-768-3510		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年8月27日	評価確定日	平成19年9月25日

【情報提供票より】 (19年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 6月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	6人
職員数	8人	常勤	4人, 非常勤4人, 常勤換算4.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル 造り		
	2階建ての 1～2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く) 6,000円(11～3月)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	20,000円
敷金	有()円	○無	(暖房費別途)
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有 / ○無
食材料費	朝食	300円	昼食 400円
	夕食	400円	おやつ 100円
	または1日当たり 1,200円		

(4) 利用者の概要 (4月1日現在)

利用者人数	6名	男性	4名	女性	2名
要介護1	1	要介護2	2		
要介護3	3	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 72.8歳	最低	58歳	最高	83歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北成病院、みき内科クリニック(主医)、カルチェド歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、札幌市及び石狩市の4箇所に1ユニット定員6～9名のグループホームを展開する運営法人が、平成15年に開設した住宅改造型の施設である。利用定員は1ユニット6名の小規模ホームであるが、介護事業に熱心な法人役員が理想的なグループホームづくりを目指して、小人数ホームのノウハウを確立している。利用者は職員が一人ひとりの思いやペースを尊重したケアサービスのもと、家庭的雰囲気的生活環境の中で明るくゆったりとした暮らしをしている。また、ホームは地域との係わりを大切に、町内会行事へ参加したり、周辺住民が訪れてくれるなど、地域のホームに対する理解が高まり、地域と一体感のある存在になっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で示された改善事項については、職員全員のミーティングによって検討し、本社とも協議しながら即改善可能な項目は早急に取り組むなど、積極的な取り組み姿勢が評価できる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価作成に際しては、職員全員が各項目を検討してまとめ、これにもとづいて管理者が作成している。自己評価の内容について改善すべき問題点については、ミーティング等で具体的な改善策を検討し、改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	昨年10月より運営推進会議が町内会長、包括支援センター、利用者家族、職員等をメンバーとして開催されている。会議ではホーム概要や運営状況など報告のほか、委員からの質問、意見、要望など意見交換がなされ、ホームの運営に反映させるようにしている。ただし、今年は構成員である町内会長の都合のより2月以降は運営推進会議が開催されていないため、早急な開催が望まれる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が訪問の際に職員が気軽に話し掛けて、家族の意見や要望を聞くように努めており、改善すべき内容については、ミーティング等で検討しながら利用者へのケアサービスに活かされている。また、ホームから家族への情報提供は、来訪時の話し合いのほか、個別に、「お便り」やホームページ(パスワード設定)で利用者の暮らしづくりが伝わるようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホーム開設当初は地域の理解度が低く交流も少なかったが、町内会加入や町内会行事への参加などホーム側の努力によって、近隣住民がボランティアなどでホームを訪問したり、庭の整備を手伝ってくれるなど、地域との連携が深まってきている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人が運営する4箇所のグループホームの共通の運営理念の中に地域住民との交流が盛られている。この理念のもと、地域の中で利用者が安心して生活できるよう努力がなされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念はホーム内の分かりやすい場所に掲示されている。さらに、日常のミーティング等において話し合われるなど、職員の共有認識となっており、日々のケアサービスに活かされるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会へ加入するとともに夏祭り、花壇整備、焼肉パーティ、防災訓練など各種町内行事へも積極的に参加している。これによって地域のホームに対する理解度が深まり、周辺住民との交流も行なわれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び職員は、自己評価や外部評価実施の意義を理解している。評価実施後はその結果について、全職員がミーティング等で問題点と改善対策を検討し、ホーム運営や利用者のケアサービスに反映させている。	○	評価に対する取り組みは特に問題はないが、改善計画シートを活用しながら問題点、改善目標、改善時期などを明確にすることによって、なお一層評価に対する理解と改善の進捗状況が明確になるものと期待される。

札幌市 グループホーム 笑顔の村二番地

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、昨年10月より開催され、ホームの概要、運営状況、評価に対する取り組み状況、地域からの要望と質疑応答など意見交換がなされている。ホームは会議の結果を踏まえてケアサービス等に活かすよう努力している。	○	推進会議は、今年2月開催以降はメンバーの町内会会長の都合で開催されていない。会議は原則2ヶ月毎開催が望ましく、町内会長代理の出席やメンバーを増員するなど定期的に会議開催が望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、管理者会議に積極的に出席しており、さらに、市の北区・手稲区グループホーム担当者とも接触し、各種相談や情報収集に努めるなど、行政との連携に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は、来訪時に日ごろの生活状況を詳しく伝えている。さらに、毎月の「ホーム便り」に個別の「お便り」も付加し、運営法人のホームページからもパスワードによって利用者の写真など暮らしぶりを見ることができる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時に意見や要望を聞くようにしており、苦情の相談窓口も設けられている。来訪の少ない家族へは、電話やお手紙等で連絡を取り、要望等をミーティングで検討してホーム運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は、法人が運営する複数のグループホーム間の移動はないが、退職による移動が若干発生している。その際は、職員同士の十分な引き継ぎ、利用者へ説明、新任者の紹介を個々に合わせて説明方法を工夫するなど、利用者へのダメージを防ぐ努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の人材育成は、内部研修が主で、外部研修へは主として管理者や主任が参加し、その内容を内部研修(ミーティング)で伝えている。しかし、最近はそのほか職員もできるだけ外部研修に参加できるよう取り組んでおり、今年度も外部研修参加の計画がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、区や全市の管理者会議に積極的に参加し、ほかのグループホーム管理者との交流もある。さらに、近くに位置するグループホームとの相互訪問があり、合同の行事計画も検討中など相互の連携を通じてケアサービスに反映させるよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム入居希望がある際には、管理者が家庭に出向き、家族や本人と面談を行ないながら要望等を把握している。さらに、利用者がホームに馴染んでもらえるよう家族とともに見学に来てもらい、安心感を与えるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、食事の準備・後片付けや掃除など家事全般や歌やゲームなどの遊びを利用者とともに行動し、介護する側としての立場を取らないよう配慮している。ホームの生活ではお互いに支えあう関係を築き、家庭的で親しみのある雰囲気の中で暮らしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活において、職員は利用者の思いを言葉や表情、さらに入浴などリラックス状態の時に話し掛けながら把握するよう努めている。また、家族からも情報を収集して参考にし、本人本位のケアサービスに活かしている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の介護計画は、家族からの意見や要望も参考にしながら利用者一人ひとりの課題を明確にし、これに対応したケアのあり方を検討してケアマネの管理のもとで作成されている。作成した介護計画は家族に説明し了解を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に定期見直しを行ない、職員全員がその内容を共有している。また、利用者の状態変化に応じて、その都度、家族や医療機関とも相談しながら臨機応変に随時見直しを行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望に応じて、掛り付け病院への送迎実施や、認知症など相談を受ける体制にあることを運営推進会議などで伝えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関とは24時間体制で相談可能であり、月2回の内科往診と歯科の随時往診が行われているが、利用者の希望に応じてほかの掛り付け医療機関の受診も可能である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のケアは予定していないが重度化に対するホームとしての指針を作成している。利用者が重度化した場合は、家族や医療機関と連携を取り、移転入院先の紹介など適切な対応を行なっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシー確保について全職員がその必要性を理解し、各種記録等の扱いや利用者への対応も十分に配慮されている。また、ホームページで暮らしぶりを見ることができるが、パスワードによって家族以外は閲覧できないようになっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の日常の暮らしにおいて、頻回な散歩の対応・夜間帯の入浴など本人の希望を大切に、対応されている。職員はホームの決まりや業務上の都合を優先するのではなく、本人の気持ちを大事にしながら、それぞれペースに合わせた支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食を除くメニューは予め決められているが、朝食は利用者の好みを聞くなどして調理している。食事時は職員と一緒に同じメニューの食事を取り、話し掛けたりさりげなくサポートし、食事準備や後片付けもそれぞれの役割を持ち、一緒に実施している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、原則週2回程度、午後に実施しているが、利用者の希望によっては、午後以外の時間帯に入浴も可能である。現在、夜間入浴希望者がおり、寝る前の入浴で安眠している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の趣味や自分でできることを事前に家族や本人から把握しており、日常の家事作業、趣味の作業、歌やゲーム類の遊びごとを行なうよう支援して、日常の暮らしに張り合いがでるよう努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的にホーム近くの公園などへの散歩や買物に出掛けている。また、年間行事の一環としてイチゴ狩り、サーカスや水族館見学などドライブを兼ねて出掛けている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は施錠をしないことの必要性を理解しており、ホームの玄関は夜間帯以外は施錠していない。日中もセンサーによって出入りが分かるようになっている。		

札幌市 グループホーム 笑顔の村二番地

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームには災害時マニュアル（火災、災害、救急）が整備されており、消防署の協力による消火避難訓練や救命救急訓練を実施している。さらに、町内行事の防災訓練にも参加し、地域の協力を得られるよう努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の水分、食事の摂取状況を毎日記録して把握しており、栄養バランスも食材を依頼している専門業者の管理栄養士によって検討されている。朝食のみは職員が利用者の好みを聞きながら調理提供している。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住宅改造型で定員6名の小規模ホームであるが、家庭的雰囲気や損なわないよう、家具や季節感のある装飾が配慮されている。トイレや浴室も清潔のあるスペースに改造されており、居心地良く過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、カーテン、照明器具、暖房設備以外は使い慣れたものや好みの家具等の持ち込み自由であり、本人が住みやすいように配置された空間で、気軽にのびのびと生活できるよう配慮がされている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。